

馬術・全日本学生選手権



▲ 巧みな手綱さばきで障害をクリアする青柳

青柳が個人優勝

全日本学生馬術選手権 (9月12、13日、北海道・日本学生馬術大会)

ノーザンホースパークで行われ、青柳創也(経済4・八幡中央高)が悲願の優勝を果たした。「イメージどおりの走りができた」と言うように準決勝まで1位通過という安定した走りで決勝へと駒を進めた。

30日(11月4日)の団体で優勝し、みんなで喜びを分かち合いたい」と笑顔を見せると同時に次の戦いを見据えた。二川祥主将(商4・宝塚高)が3位に入賞し、4年次生コンビが躍動した。今大会、団体戦ではどんな戦いを見せてくれるのか、4年次生2人から、まだまだ目が離せない。(三嶋球里衣・経営2)

卓球男子 11年ぶり28回目V

秋季関東学生リーグ戦



▲ 表彰式で喜びの部員たち

5戦全勝で早大との全勝対決を迎えた。勝てば優勝が見えてくるこの一戦をなんとか取りたい専大だが、立ち上がりの2試合を奪われてしまう。この悪い流れを変えたのは、やはり田添だった。3試合目を3-1でものにする、引き続き郡山北斗(経営1・関西高)とダブルスに出場。フルセットの激闘の末勝利し、これで2-2。5試合目は危なげなく勝利。6試合目こそ敗れたが、最後は厚谷武志(商4・駒大苫小牧高)がストリートで試合を締め、全勝対決を制し、優勝を決めた。

松浦佑紀主将(経営4・武田高)は「優勝の瞬間は信じられなかった。できれば、と思っていたが、1レース目の内容でいけると思い、最後まで頑張れた。優勝できてうれしい。今後はすべての試合で決勝進出を目指したい」と語った。(新井健太郎・文3)

結果に満足せず、さらにとチームをたたえた。チームとして進化していきたい」と話し、高宮啓監督は「4年次生の粘り強い姿勢が伝わり、一体感のある戦いができた」。

野球・東都大学秋季リーグ戦 春秋連覇に向け終盤戦

最終戦に入った東都大学野球秋季リーグ戦。昨戦、駒大戦と勝ち点を奪ったものの、國學大戦では勝ち点を逃し、第6週終了時点で3位。10月14日に行われた首位・中大との初戦は初回に二塁5点を奪い、その後も着実に加点。4投手のリレーで最少失点に抑え、9-1で大勝した。1勝1敗のまま延期されている日大との3戦目が残っており、リーグ戦連覇を目指す専大野球部は負けられない戦いを続けている。



▲ 初打点を挙げた福永



▲ 初打点を挙げた福永

好投手・今永を擁する駒大から勝ち点を奪った。連敗を喫した國學大も、五回に3ランを浴び勝利を逃す。2戦目は高橋、佐々木泰裕(商1・秋田商高)、宮里泰悠(商3・浦添商高)などの継投で相手打線を抑え、九回裏に同点に追いついたものの、延長の末、悔しい逆転負けとなった。しかし、その中でも収穫はあった。投手陣では佐々木、宮里、山田宏夢

ヨット・全日本学生個人選手権 シングルハンドの部レーザークラス

吉田、創部初の王者

9月3日から6日まで、愛知県蒲郡市海陽ハーバーで全日本学生ヨット個人選手権大会(シングルハンドの部レーザークラス)が行われ、吉田慎一朗(法2・桐蔭学園高)が専大ヨット部初の学生チャンピオンとなった。

決勝は12人で争い、計8レースのタイムなどで総合順位を決める。吉田は、1レース目で3位に入ると手ごたえを



▲ さらなる活躍を誓う吉田

紀の国わかやま国体 フェンシング成年女子フルーレ 菊池出場の熊本優勝

2015紀の国わかやま国体(9月26日~10月6日)のフェンシング成

年女子フルーレで、菊池小巻(商1・翔陽高)が熊本の初優勝に貢献した。菊池は「優勝が決まった瞬間の歓声で勝利を

都合により写真を掲載いたしません。紙面をご覧ください。

▲ 賞状を手にする菊池(中央)

で、今年度以上の成績を残せるよう頑張ります」と語った。同団体には多くの専大生が出場。各種目で上位に入賞した。主な入賞者は次のとおり(10月12日現在)。
【ゴルフ成年男子】山田大晟(商2・横浜旭陵高/神奈川県代表) || 団体2位
【レスリング成年男子】▽フリースタイル61kg級 但野航(経営3・岐南工高/岐阜県代表) || 個人3位
▽同65kg級 原田駿(商4・島原高/長崎県代表) || 個人2位